

ごあいさつ 宮田 玲

この度「ヘブライ語I」を担当させていただくこととなりました宮田玲と申します。ウイリアムス神学館では、二年ほど前から図書室で司書係をつとめております。神学生の皆様が徐々に確実にたのもしくなられる様子を、日々見つめてまいりました。

まさにヘブライ語を通じて、私は聖書と向き合う道に入りました。大学では別の学問を志しておりましたが、転換の最初のきっかけとなりましたのは、森田雄三郎先生の宗教学と宗教哲学のご講義を受講したことであつたと思ひます。その後の聖書ヘブライ語の授業への参加を経て、大学院で聖書学(旧約)を学ぶこととなりました。白衣を着て実験室と動物飼育室を行き来するそれまでの大学生活から一転し、三年以内なら戻れるという元の学部からの期限

いちから学び直しつつ結局十年以上を大学院で送りました。それほどまでに、聖書ヘブライ語という言語との出会いは私には決定的でした。今回、神学生の方々とあらためてヘブライ語を学ぶ機会が与えられましたこと、望外の幸いに存じます。

要領を得ない私を導いてくださいましたのは、多くの先生方、先輩方にほかなりません。指導教授であられた野本真也先生からは、詩的言語としての聖書ヘブライ語のとらえ方 자체をご教示賜りました。歴史批評に対する深いご洞察のもと、一つの欄外注もおろそかにしない態度でもって、聖書に込められた比喩的な意味の重層性を解説してくださいました。聖書の知恵を一人ではとらえきれないと、同時にお示しくださつたと思つております。今も先生の読みの深みにはまったく至らないままの私ですが、聖書の言葉の連関の中でこそ浮かび上がつてくる

ことを、豊かな神学館での豊かな学びにとりまして、できれば一助となりますよう、精一杯つとめたく存じます。どうぞよろしくお

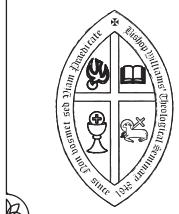
問い合わせばとっくにやり過ごし、気付けばとっくにやり過ごし、

日本聖公会 ウイリアムス 神学館ニュース

2021年 第109号

The Bishop William's Theological Seminary NEWS

日本聖公会京都教区
発行・編集人:黒田裕
〒602-8011
京都市上京区桜鶴町380
TEL:075-431-5406
FAX:075-431-5445
williams@muc.biglobe.ne.jp



意味に向こうみたいといふ思ひは学び始めたときから持ち続けております。

現在、いくつかの大学で非常勤講師をつとめさせていただいております。折からのコロナ禍で、直接にやりとりをする授業はままなりません。このような状況に至つて、学習の時間を共有できますことこ

とにやります。このような状況に至つて、講師をつとめさせていただいておらず、折からのコロナ禍で、直接にやりとりをする授業はままなりません。このよ

(みやたあきら 本館教授

ヘブライ語I)

道を伝えて

四年前に九十二歳で天に召された私の父は、最初は国鉄に勤めていましたが、献身を決意して関

学の神学部で学び、卒業後は日本キリスト教団の牧師として五十年近く牧会に従事しました。つまり私は牧師の家庭に育つたわけですが、小中学生の頃、親の職業を人から尋ねられるのがものすごく嫌でした。もちろん相手が信仰者等の教会関係者ならいのですが、そうでない場合、「教会の牧師です」と答えると、露骨に変な顔をされたり、(まるで聞いてはいけないことを聞いてしまつたともいうように)戸惑いの表情を浮かべられ、氣まずい雰囲気

になることが多かつたからです。しかしそれだけに、父が自分の仕事に大きな誇りと自信をもつているように見えたことが私にはとても不思議でした。その後、自分自身も神学部で学んで牧師として働くようになりました。父のそのような態度も少しは理解できるようになつてきました。考えてみると、道を伝える(伝道する)とは理屈で分かることを教えることではありません。そうではなく人が生きる道を伝えるのですから、最終的にはその人自身の生き様(仕事に対する姿勢等)を通してしか伝えられないということ

になります。

神学生の皆様の神学館での豊かな学びにとりまして、できれば一助となりますよう、精一杯つとめたく存じます。どうぞよろしくお

願いいたします。

(嶺重淑みねしげきよし
本館教授新約学)

同窓会通信

わたしの聖職としての歩みの基礎として、常に心に留めている二つの言葉があります。一つは「道を伝えて己を伝えず」というウイリアムス主教の生涯を表す言葉、もう一つは紀要の題名にもなっている「伝道」(中道・中庸)です。

最近、「伝道」という言葉はほと

新入生紹介

小野 恭子 神学生

初めまして。今年四月にウイリアムス神学館に入学した、京都教区神学生の小野恭子です。

この原稿の執筆時点では、入学して一ヶ月半が経ちました。現在の状況について「漸く少し落ち着きました」と書きたいところですが、現実は未だバタバタしております。課題を一つクリア出来たと思つたら、今度は別の課題に躊躇。暫く倒れたままで、漸く「よいしょ」と起きてよろよろ歩く。そ

してまた躊躇。…そんな繰り返しの日々です。

勉強面でも課題に取り組んでいます。入学前「勉強で確實に苦労する」と家族等と話していました。授業が始まつた途端に話していた通りの状況となり、毎日「ハードカバーの広辞苑が五～六冊天井から落ちてきて、身体のあちこちに当たる」気分です。暗澹たる状況になりました」と書きたいところですが、現実は未だバタバタしております。課題を一つクリア出来たと思つたら、今度は別の課題に躊躇。暫く倒れたままで、漸く「よいしょ」と起きてよろよろ歩く。そ

んど姿を消し、「宣教」が取つて代わりました。宣教は「教えを宣べる」と書きます。全ての宗教に教えは必須ですが、教えを受け止めるために理解が、知的な営みが強調されるように感じます。一方、伝道は「道を伝える」。最近はスマートの普及で道を訊ねられることがほんんどなくなりましたが、知り尽くした街なら、あそこを右に、次を左にと、目印を示しながら迷わぬよう丁寧に教えられるで

しょう。しかし、天への道はわたし自身も道を訊ねながら歩む旅人です。だとしたら、ゴールを見つめ、外してしまったのです。水の上を歩みペトロが恐れに囚われた瞬間に溺れかけたように。

ウイリアムス主教の生に思いをは違います。右と左の間にある一筋の真理の道です。若い頃、「中道」とは剣の刃の上を歩むにも似た困難な道」と教えられました。一本橋を渡り切るにはコツがあります。肩の力を抜き、はやりゴール

をしつかりと見つめることです。怖くなつて足元を見た瞬間に踏み外してしまったのです。水の上を歩むペトロが恐れに囚われた瞬間に溺れかけたように。

ウイリアムス主教の生に思いを馳せ、無名の一人の聖職として、中道とは、右と左の間の廣々とした平らな道をのんびり歩くのとは違う。右と左の間にある一筋の真理の道です。若い頃、「中道」とは剣の刃の上を歩むにも似た困難な道」と教えられました。一本橋を渡り切るにはコツがあります。肩の力を抜き、はやりゴール

(司祭宇津山 武志うつやまたけし
横浜教区 静岡聖ペテロ教会 牧師)

が唇を動かします。毎週ある課題のために必死に読む聖書のみ言葉に、新鮮な驚きや励まし、また慰めを感じます(これが結果に反映されたら嬉しいのですが、現実はそんなに甘くないです)。先生や先輩神学生、同級生をはじめとする周囲の方々との語らいに、思わず笑みがこぼれます。そのような時にそつと触れた瞬間、「今はここにいてもいいのかな?」と思うと同時に、誰に言うでもなく「ありがとうございます」と口に出している自分に先

もう何ヶ月もここにいる気分ですが、まだ「一年生」になつたばかり



はじめまして。春からウイリアムス神学館に入学した平良子といいます。

実家は京都の郊外の城陽市で、受洗は幼児期に受け、エステルという名をいただきました。

小学校の時、父の転勤でイタリアに住んでいました。そこではカトリックの学校に通い、低学年でイエス様の磔にされる映画を見させられ、クラスメイトの勧めで受苦日は床に直接ひざまずき、クリスマスはミサをし、日常でも学校でも修道院のような生活を経験しました。帰国後は京都聖ヨハネ教会で聖書の朗読をし、社会人になつてからるとある年に、長野を襲つた台風の被害状況をテレビで見て、他人事ではないと思い、府主催の災害ボランティアに参加しました。体中泥だらけになつて倒壊した家屋の木材を運び、クリスマスの祝会で報告をしたその帰りに、ふと『牧師になりたい』と思いました。そのことを今はお亡くなりになつた当時管理牧師だった大江直道先生に打ち明けると、「それは良いことですね。応援します

平 良子 神学生



よ」と言つて下さり、その言葉を励みに教会の活動も自分なりにし、またウイリアムス神学館に体験入學をして、いよいよ決心が固まりました。私にとつてウイリアムス神学館は勉強においても、生活においてもレベルが高かつたので、こんな自分で良いのかと自問自答しましたが、神様、イエス様に背中を押されて入学試験を受けて今に至ります。性格はおつちよこちよいで気が利きません。しかし、他人を悪く言わないという長所もあります。今は、覚えることも考えることも多く、四苦八苦していますが、寮で日覚めますと春はウグイスの鳴き声が聞こえ、みんなともに礼拝し、食事し、勉強するというはうれしいことです。イタリアでの日々を思い出します。これからも毎日を神様、イエス様の恵みを感じ、感謝の中で過ごしていきたいと願っています。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

宮本 憲 聽講生

もう二十年以上前になりますが、米国長老教会のピツツバーゲ神学大学修士課程、プリンストン神学大学博士課程を修了した後、十七年間にわたつて神戸松蔭女子学院大学で専任教員として、またプール学院大学でも非常勤講師としてキリスト教学関係科目を若者達に教えてきました。元は日本基督教団だったのですが、プリンストン滞在中に米国聖公会で堅信を受けたエピスコパリアンとなりました。はやいもので丁度二十五年前のことです。

神学校で学んだのは当時牧師志していたためですが、大学で教鞭を執ることになつたためその志を一旦は断念したつもりでした。ところが、二〇一九年春の定年退職前後から聖職志願への招きがあり、磯主教様や芦屋聖マルコのウイルソン司祭とご相談しながら準備を進めてきたのでした。ただ、その間に受けた眼科手術やコロナ禍の影響で準備が滞り、やつこの四月から神学館で学ばせて頂けりました。私はこれまでウイリアムス神学館は勉強においても、生活においてもレベルが高かつたので、芦屋聖マルコ教会の出身です。ウイリアムス神学館で科目履修生として一年間複数の授業を聽講させて頂くことになりました。

この四月に大阪教区神学生となりましたクリストフ宮本憲です。芦屋聖マルコ教会の出身です。ウイリアムス神学館で科目履修生として一年間複数の授業を聽講させて頂くことになりました。

もう二十年以上前になりますが、米国長老教会のピツツバーゲ神学大学修士課程、プリンストン神学大学博士課程を修了した後、十七年間にわたつて神戸松蔭女子学院大学で専任教員として、またプール学院大学でも非常勤講師としてキリスト教学関係科目を若者達に教えてきました。元は日本基督教団だったのですが、プリンストンの導きの下、この国における神の宣教の御業のために微力ながらもご奉仕させて頂ければと願つております。どうぞよろしくお願ひいたします。

志していたためですが、大学で教鞭を執ることになつたためその志を一旦は断念したつもりでした。

ところが、二〇一九年春の定年退職前後から聖職志願への招きがあり、磯主教様や芦屋聖マルコのウ

イルソン司祭とご相談しながら準備を進めてきたのでした。ただ、その間に受けた眼科手術やコロナ禍の影響で準備が滞り、やつこの四月から神学館で学ばせて頂けました。私はこれまでウイリアムス神学館は勉強においても、生活においてもレベルが高かつたので、芦屋聖マルコ教会の出身です。ウイリアムス神学館で科目履修生として一年間複数の授業を聽講させて頂くことになりました。

もう二十年以上前になりますが、米国長老教会のピツツバーゲ神学大学修士課程、プリンストン神学大学博士課程を修了した後、十七年間にわたつて神戸松蔭女子学院大学で専任教員として、またプール学院大学でも非常勤講師としてキリスト教学関係科目を若者達に教えてきました。元は日本基督教団だったのですが、プリンストンの導きの下、この国における神の宣教の御業のために微力ながらもご奉仕させて頂ければと願つております。どうぞよろしくお願ひいたします。

志していたためですが、大学で教鞭を執ることになつたためその志を一旦は断念したつもりでした。

ところが、二〇一九年春の定年退職前後から聖職志願への招きがあり、磯主教様や芦屋聖マルコのウ

シュペネマン先生 を覚えて

クラウス・シュペネマン先生は1937年にベルリンで生まれ、ハイデルベルク大学で神学・哲学などを学び、博士号を取得された。アメリカ留学中に日本人女性（大島偕美さん）と知り合って結婚。1970年、日本クリスチヤン・アカデミー関西セミナーhausに招かれて来日し、同志社大学文学部で哲学と倫理学を教えられた。ウイリアムス神学館では「キリスト教倫理」を担当されたとかがっている。長年にわたってドイツと日本の文化的な架け橋となる仕事をなさり、ドイツ政府から文化功労賞を、チュービングン大学から博士号を贈られている。日本クリスチヤン・アカデミー理事長を務め、同志社大学名誉教授。今年2月3日、83歳で召天された。

私自身の同志社大学在学中は先生の講義をお聴きする機会はなかつたが、後年、同志社大学キリスト教文化センターの教員となつて、チャペル・アワーの奨励などをお願いすることもあってお交わりをいただくようになつた。厳格を絵に描いたようなドイツ的風貌で、学生たちからすればなかなか厳しい教授という印象（と実態？）を漂わせな

がら、他方、よく学生の面倒を見る方でもありました。ちょっと不思議な日本語を使い、それが愛嬌にもなるという方だったことをよく覚えています。同志社大学のチャペル・アワー（2011年6月29日）における晩年の奨励の一節を紹介いたします。

「ギリシャの世界にスコラ哲学という宗教的な思想がありました。スコラ哲学では、こう考えます。人間は同心円で生きている。一番狭い円は自分が生まれた家です。次の円は近所、次の円は自分の町、次の円は自分の国、一番広い円は世界です。人間はどうしても自分が生まれた家が中心、根を下ろすことができる故郷が必要です。同時に人間は成長するためには、そこから離れて別な人と出会いわなければならぬ。子どもは、家から離れないで大きくならぬ。学生は、いつまでも親のもとで生活するのではなく、大人になるために家から離れて自立しなければならぬ。よい日本人になるためには、外国に行つて、しばらくそこで生活することが必要だと思います。このようにバラエティの多い世界で、人間は成長していくということです。」

先生のご生涯とお働きを偲び、先生を導き祝福された主に感謝します。

（越川 弘英 本館教授礼拝学）

動画配信のご案内

過去の講座も随時
お申込みいただけます！

『いまさら聞けない!?キリスト教講座』2016年～2021年

〔2016年度〕

〔2020年度〕

講師..菊地伸一先生
テーマ..教会史編

*主に西洋キリスト教の歩みを振り返ります。叢書第3巻も併せてどうぞ。

〔2021年度〕（現在開講中）
講師..嶺重淑先生
テーマ..新約思想編

*聖公会の歴史的な成り立ちや聖公会の特徴について分かりやすく解説されています。今秋に書籍版が刊行予定！

〔2017年度〕
講師..岩城聰先生
テーマ..聖公会って？編

*「愛」「共生」「祈り」「奉仕」等の主要な倫理上の主題を取り上げ、関連テキストの講読を通して、共に学びを深めていきます。

〔2018年度〕
講師..勝村弘也先生
テーマ..旧約聖書編

*旧約聖書ことに詩編や雅歌といった文書についてその文化的背景を踏まえてお話ししています。叢書第4巻も併せてどうぞ。

皆さまと共に、祈りと学びの時を持てますことを願つております。年間10講座で受講料は1万円です。

〔2019年度〕
講師..前川裕先生
テーマ..新約聖書編

*福音書やパウロ書簡について、その成り立ちや研究の歴史を踏まえたお話しをしてくださっています。

お問い合わせ & お申し込み
TEL: 075-431-5406
FAX: 075-431-5445
E-mail: williams@muc.biglobe.ne.jp